

# 「統合型リゾート（IR）に関する基本的な考え方」 改訂に向けた検討について

## Ⅲ. 北海道らしいIRコンセプト

### ○改訂論点

- ・ IR施設の事業運営を通じた効果の明確化について
- ・ 大都市圏とは条件の異なる地方におけるIRの整備について
- ・ 施設機能（MICE、宿泊、送客、魅力増進等）と大阪IRの認定について
- ・ 地方の特性が発揮できるIR制度について

## Ⅲ 北海道らしい I R コンセプト

### 改訂論点

- (1) I R 施設の事業運営を通じた効果の明確化
- (2) 大都市圏とは条件の異なる「地方」における I R の整備
- (3) 施設機能（M I C E、宿泊、送客、魅力増進等）と大阪 I R の認定
- (4) 地方の特性が発揮できる I R 制度

### キーワード

- (1) カジノ以外の施設機能での堅実な事業継続、カジノ収益は社会に還元と再投資
- (2) 後背人口、ビジネス集積、国際空港、新幹線など大都市圏との事業環境の違い
- (3) 地域の立地環境や自然・季節・地理的特性などを活かしたこれまでにない I R
- (4) 地域の特性を活かした事業の高収益性、継続性の確保、施設要件の緩和

# Ⅲ (1) I R施設の事業運営を通じた効果の明確化について

## 運営効果の方向性

〔本道の経済・社会・環境への貢献〕

項目	内 訳	方向性検討（例）
事業資金の調達	I R事業者、国内企業の出資、借入金	道内企業のI R事業への参画
地元調達	主な項目：農林水産品、飲食料品など	食材・酒類の提供、お土産品、旅行商品
雇用者数	道内、国内、外国人（大阪I Rでは約1.5万人と想定）	雇用創出による周辺人口の増加
来場者数	外国人客、道外客、道内客 （大阪I Rでは1,987万人（うち外国人629万人）と想定）	カジノ部門：国内人 < 外国人
各地域への送客	I R以外の地域への滞在促進 （大阪I Rでは約4.3万人と想定）	I R来場者：I Rのみ < 道内各地
売上額	カジノ施設、その他の施設（宿泊・飲食、施設利用・入場収入など、大阪I Rでは1,000億円と想定）	カジノ以外の施設の売上額拡大
環境への配慮	エネルギー調達、環境との調和	経済と環境の好循環 優れた自然環境等を中核コンセプト
最先端技術	DX・AI、GXなど	実証モデル、新技術の実験場

## 健全なカジノ施設の収益の社会還元

・納付金（地方分15%）、入場料（地方分3千円/人）の大阪府・市の施策例

（I R区域の整備推進（夢洲まちづくり関連インフラ等の整備・管理、夢洲周辺の魅力向上）、  
 カジノ施設の設置運営に伴う有害影響の排除（ギャンブル等依存症対策、治安・風俗環境対策）、  
 観光の振興（にぎわい創出、スポーツ等）、地域経済の振興（中小企業支援、新産業・起業支援）、  
 社会福祉の増進（セーフティネット、教育等）、文化芸術の振興（文化力を活用した都市づくり等）

# (2) 大都市圏とは条件の異なる「地方」における IRの整備について

## 3 大都市圏と北海道

・ 都市圏の人口（2020年国勢調査） \* 総務省

都市	周辺人口	構成地域
東京	<b>3,766万人</b>	東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県（一部除く）、茨城県・栃木県・群馬県・山梨県の一部 ※70キロ圏内
大阪	<b>1,618万人</b>	大阪府・兵庫県・京都府・奈良県・滋賀県・和歌山県・三重県の一部 ※50キロ圏内
名古屋	<b>925万人</b>	愛知県（一部除く）、三重県・岐阜県・滋賀県の一部 ※50キロ圏内
札幌	264万人	石狩振興局、小樽市、岩見沢市、美瑛市、南幌町、由仁町、長沼町、栗山町 ※札幌大都市圏

・ 都道府県別普通法人数等の状況（2023年度） \* 国税庁

地域	申告法人数	所得金額(利益)
東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県	<b>1,100,665</b>	<b>54兆6,504億円</b>
大阪府・兵庫県・京都府	<b>431,053</b>	<b>12兆6,872億円</b>
愛知県・三重県・岐阜県	<b>239,757</b>	<b>10兆6,572億円</b>
北海道	115,878	1兆4,025億円

・ 空港、主要駅利用状況（空港2024年度、新幹線2023年度） \* 国土交通省

都市	空港利用者数		新幹線駅乗降客数		
	〔 国際線 ・ 国内線 〕				
東京	羽田国際・成田国際	<b>5,506万人</b>	<b>7,239万人</b>	東京駅	<b>31.3万人/日</b>
大阪	関西国際・伊丹	<b>2,503万人</b>	2,217万人	新大阪駅	<b>15.9万人/日</b>
名古屋	中部国際	491万人	612万人	名古屋駅	<b>13.3万人/日</b>
札幌	新千歳	389万人	2,095万人	—	—

# (3) 施設機能 (MICE、宿泊、送客、魅力増進等) と大阪IRの認定について①

## MICE施設

### 〔基本方針〕

- ・ 民間の活力を生かしてこれまでにないようなスケールとクオリティを有するMICE施設を整備することにより、これまでにないような国際的な会議等を展開し、新たなビジネスの起爆剤となることを目指し、政令で定める基準に適合することが要件。
- ・ なお、国際会議や展示会等の規模に応じて、国際会議室や展示スペースを間仕切りをして臨機応変に使用することは認められ、国際会議や展示会等を開催しない日に、スポーツイベントやコンサート等を開催し、誘客効果を最大化することも重要。

### < IR整備法施行令におけるMICE施設の規模要件 >

カテゴリー	会議場施設 ※	展示等施設
カテゴリー①	最大会議室の定員 1,000人～3,000人	有効展示等面積12万㎡以上
カテゴリー②	最大会議室の定員 3,000人～6,000人	有効展示等面積6万㎡以上
カテゴリー③	最大会議室の定員 6,000人以上	有効展示等面積2万㎡以上

### < 各地のMICE施設 >

施設名	施設規模	備考
東京国際フォーラム	最大会議室の定員 5,012人	
札幌コンベンションセンター	最大会議室の定員 2,500人	新計画⇒ 3,000人～5,000人 ※2033年度(R15)以降開業の方向
東京ビックサイト	総展示面積 11万5,420㎡	
アクセスサッポロ	総展示面積 8,545㎡	新計画⇒ 15,000㎡ ※2027年(R9)秋開業予定
大阪IR 国際会議場	最大会議室の定員 6,892人 (中小会議室も含めた最大収容人員13,786人)	カテゴリー③
大阪IR 展示等施設	総展示面積 2万0,051㎡ (ホールA9,884㎡、ホールB10,167㎡)	

## (3) 施設機能（MICE、宿泊、送客、魅力増進等）と大阪IRの認定について②

### 宿泊施設

#### 〔基本方針〕

- ・ MICE施設等の他のIR施設への来訪者の需要に対応するだけでなく、誘客施設の一つとして、高度化及び多様化する国内外の旅行者の需要に対応し、新たな宿泊需要を生み出すことを目指し、利用者の需要の高度化及び多様化に対応したものであって、政令で定める基準に適合するものであることが要件。

#### < IR整備法施行令における宿泊施設の規模要件 >

項 目		諸外国のIRの 宿泊施設	日本を代表する 宿泊施設の平均※
スイートルームの最小客室面積の平均		65.6㎡	58.7㎡
最小客室面積の平均		40.0㎡	29.0㎡
客室数	総客室数の平均	2,495室	930室
	スイートルーム数の平均	617室	47室
	スイートルーム割合の平均	19.2%	5.3%

※「帝国ホテル東京」「ホテルオークラ東京」「ホテルニューオータニ東京」の3施設の平均

#### < 大阪IRの宿泊施設 >

- MGM大阪、MGM大阪ヴィラ、MUSUBIホテルを整備予定。
- 3施設のスイートルームの最小客室面積 約65㎡、3施設の最小客室床面積 約37㎡
- 3施設の合計客室数 2,499室、3施設のスイートルーム割合 約20%以上

## (3) 施設機能（MICE、宿泊、送客、魅力増進等）と大阪IRの認定について③

### 送客施設

#### 〔基本方針〕

- ・ 来訪者をIR区域に囲い込むのではなく、国内各地の魅力をショーケースとして紹介し、来訪者を国内各地に送り出して、実際に現地で体験していただくことにより、世界と国内各地をつなぐ交流のハブとなることを目指し、我が国における各地域の観光の魅力に関する情報を適切に提供し、併せて各地域への観光旅行に必要な運送、宿泊その他のサービスの手配を一元的に行うことにより、国内における観光旅行の促進に資する施設。

#### <大阪IRの整備計画>

- ・ 関西ツーリズムセンター

機能区分	導入機能
ショーケース機能	各地の魅力を伝える臨場感ある映像の投影、地域別・テーマ別の体験観光を紹介、自治体・DMO向けポップアップスペースの提供、観光情報に演出を施した画像や映像を配信
コンシェルジュ機能	AIによる旅行相談端末、対面型の旅行相談窓口、VIP向けの旅情相談窓口

- ・ 「バスターミナル」「フェリーターミナル」の整備  
関西の交通事業者等との連携により、IRを起点とした多様なバス及び会場アクセスルートを構築

## (3) 施設機能（MICE、宿泊、送客、魅力増進等）と大阪IRの認定について④

### 魅力増進施設

#### 〔基本方針〕

- ・世界に向けて、日本の魅力を発信し、世界中から観光客を集めることを目指し、我が国の伝統、文化、芸術等を生かした日本らしい魅力的なコンテンツを提供する施設。

#### ＜大阪IRの整備計画＞

- ・「ガーデンシアター（劇場）」「三道体験スタジオ（伝統文化等の展示場）」  
「ジャパン・フードパビリオン（レストラン）」  
「関西ジャパンハウス（工芸体験・物販施設）」「美術館」を整備。

### その他の施設

#### 〔基本方針〕

- ・①から④までのいずれにも該当しない施設であって、国内外からの観光旅客の来訪及び滞在の促進に寄与する施設。
- ・地域の創意工夫や民間の活力を生かしてIR施設への集客力を高めるために設置することが可能。地域の創意工夫や民間の活力を生かして、ビジネスからレジャーまで、大人から子どもまで、外国人でも日本人でも、幅広い客層が楽しんだり利用できる施設となることが期待される。

#### ＜大阪IRの整備計画＞

- ・大阪IRにおけるエンターテインメントの中心施設としての劇場、夢洲シアターを設置。
- ・夢洲シアターでは年間を通じて安定的な来訪を促すイベントプログラム等の導入。
- ・このほか、イベント会場等を整備。

### Ⅲ (4) 地方の特性が発揮できる I R 制度について

#### 北海道らしい I R 検討に向けた論点

区 分	課題・方向性
施設総体・事業運営	大都市圏と同様の計画策定は困難、地方における継続的な事業運営のあり方、施設要件の緩和、全道への効果波及など効果の明確化、カジノ以外で高い収益を確保
M I C E 施設 会議場・展示場	需要想定を踏まえた規模要件のあり方、稼働率を高める多様な活用方策 札幌市をはじめ道内各都市との連携、棲み分け
宿泊施設	富裕層から道民まで詳細な客層分析に基づく需要想定と規模要件のあり方
送客施設	I R 来場者の全道各地への送客、全国への送客機能と合わせた道外からの誘客
魅力増進	北海道ならではの各地域に根ざした魅力を伝える機能
その他の施設	北海道の魅力を活かし、I R 各施設の稼働率を引き上げ、国内客・家族・多世代が楽しむことができる、本道にこれまでにない集客施設

#### 施設の基準・要件の緩和

- ・「観光立国」実現に向け、大都市圏と異なる地方の特性が発揮できるよう M I C E 施設及び宿泊施設の基準・要件の緩和 ➤ゲーミング区域の床面積上限割合(3%)は遵守

#### 懸念事項の想定

- ・ I R を巡る国際観光市場の潮流や事業環境の変化などによる事業の継続性に係るリスク
- ・ インバウンド増加によるオーバーツーリズム（周辺地域の渋滞や混雑など）
- ・ 立地地域周辺での人材不足、地価・家賃等の高騰、治安の悪化など
- ・ カジノ設置・運営による問題が顕在化した場合の観光地イメージの低下
- ・ 大規模開発による環境負荷、自然環境の保全、その他の社会的なコストの顕在化